《5》「ゆるやかなつながり」づくりへの取り組み

① 地域の「つながり」づくり ～瀬谷区南瀬谷地域福祉保健計画の推進から

執筆
伊藤 彩子
瀬谷区高齢・障害支援課担当係長
（南瀬谷福祉保健チームリーダー）

1 はじめに

瀬谷区は、平成17年に策定した第1期地域福祉保健計画において、全区に先駆けておおむね連合町内会（以下「連合」という）を単位とした12の地区別計画を策定した。その後、この地区別計画を推進するため、福祉保健センターの係長をリーダーとする「地区支援チーム」が作られた。地区支援チームは、一つの連合区域（＝地区社協）の福祉に関する総合窓口となり、地域活動を支援している。メンバーは、福祉保健センター職員及び区社会福祉協議会職員、地域ケアプラザのコーディネーター等である。平成21年度からは、総務部及び土木事務所も一つの連合町内会区域を担当しており、地区全体の支援は、進捗管理を担う課長のもと、福祉保健チームと総務土木チームにより行っている（図1）。

瀬谷区地域福祉保健計画では、「個性を理解して広がる支え合いの輪」、「つながる、地域の人と活動」、「みんなが支える地域の活動」の3つを共通の基本目標としながら、地区ごとに「地区の人材と資源を活かした身近な支えあいと見守りの活動」を進めることとしている。

今回は、筆者が福祉保健チームのリーダーを務める南瀬谷地区において、地域が関係機関と連携し生み出したつながりづくりに焦点を当て、その成果と成功要因に言及する。

2 南瀬谷地区の概況

南瀬谷地区は、相鉄三ツ境駅からバスで南西へ15分程度のところに位置する地区である。地区の北側にあたる南台一、二丁目は大規模市営住宅が、南側にある南瀬谷一、二丁目は戸建が中心となっている。世帯数は約3,500、人口は約8,000人である。単位自治会数は19あり、瀬谷区では中規模の連合である。なお、高齢化率は28・5％と市全体の20・0％を大きく上回っている。

3 地域内のつながりづくり

ここでは、地域資源（本稿では、物的・人的資源や事業のしくみなどを総合的に指す）の変遷から、地域内のつながりづくりの過程とその成果をみたい。表1をご覧いただきたい。

❶計画策定前から第1期計画期間中

策定前と策定後では、地域資源が大きく変わっていることをご覧いただけるはずである。第1期計画策定以前は、各役員や有志が中心となった活動がそれぞれに立ち上がり、展開されていたが、策定後は、地域が策定した「地区別計画」をもとに「地域全体の福祉の向上のために必要な取り組み」が、「地域内団体の連携」や「地域と行政の連携」により進められた。

第1期計画期間中には、主に次のような取り組みが生まれた。

・高齢者向けサロン（平成18年～21年）

ふれあいの場として、高齢者向けサロンができ、地区全体に均等に広がった。立ち上げには、区の補助金が活用された。

・一人暮らし高齢者への防災グッズの配付（平成21年～）

サロン等による「さりげない見守り」から、より強固な見守りとして「一人暮らし高

図1　瀬谷区の地域支援体制のイメージ

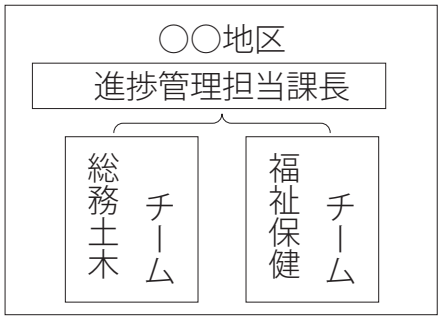

表１　地域資源の変遷

	地　域　資　源　の　変　遷
H17年度以前 (地福計画 策定以前)	連合役員、民生・児童委員、その他ボランティアそれぞれによる活動。 各事業所管課や区社協それぞれが支援 **ふれあいの場** ● 未就学児サロン ◆ 給食会(老人会) ▲ マージャン交流会 **健康づくりの場** ★★★★ 体操グループ(高齢者) **配食サービス** ▼ 弁当の製作・配達(高齢者) 配食サービス たんぽぽの会
H18～H22年度 (第１期 地福計画) **多様化**	地区支援チームによる支援が開始。地域全体の『福祉』の向上のため、地域内団体や地域と行政の協働により、不足していた取り組みが立ち上がる。 （※）＝行政との協働による取り組み **ふれあいの場** ● 未就学児サロン ■■■■ **高齢者サロン** ◆ 給食会(老人会) ▲ マージャン交流会 ◇ **こどもの遊び場イベント（※）** ▽ **多世代交流イベント（※）** ☆ **福祉まつり（※）** **見守りあい** ◎ **1人暮らし高齢者への防災グッズの配付（※）** **助けあい** ◎ **お助け人材確保（※）** ◎ **地域内ＮＰＯ法人の活性化（※）** **総合拠点** **「高齢者等地域拠点」（※）** **市営南台ハイツ内に設置** **地域ボランティアが常駐** 高齢者サロン よってってA 子どもの遊び場 イベント 防災グッズ いざ！ともくん NPO法人せや 有償移動サービス 高齢者等地域拠点あって～南瀬谷」
H23年度～ (第２期 地福計画) **総合化**	各取り組みは、様々な担い手により着実に推進。地域全体の『暮らし』の向上のために、地域内のつながりをより強めるような総合的な課題を設定し、取り組みを検討中。 **地域情報誌（※）** **連合、地区社協合同で発行** **総合的な課題設定と検討** ◎ **コミュニケーションの活性化（※）** ◎ **人材の育成（※）** **プレイパーク事業（※）** **「プレイパークをつくろう会」が実施**

齢者への防災グッズの配付」が始まる。これは、区の高齢者定期訪問事業の課題を踏まえ、新しく創設された「気づきのキャッチ・見守りのリレー事業」による地区への補助金を活用したものである。南瀬谷地区では、この事業をきっかけにグッズを準備し、配付し始めた。自治会が一人暮らし高齢者の把握を、地区社協がグッズの準備を、各自治会が民生委員等と協力して配付や品物の入れ替えを兼ねた定期訪問を行い、地区で情報を共有している。加えて、地区社協は、配付にあたっての研修会も開催している。

・地域の総合拠点「高齢者等地域拠点」の開設（平成20年度～）

地区が、第1期計画に「総合的な福祉拠点の確保」と掲げたことがきっかけとなり、平成20年に、建築局の協力のもと市営南台ハイツ内の一室に拠点を設置した。拠点では、①よろず相談（月～土）、②地域の福祉保健活動のための場の提供、③情報の収集と発信、を行っている。運営は、開設後3年間は区社協が、その後は地区内のＮＰＯ法人が担っている。区は運営費の補助を行い、地区は当該拠点を「地域の拠点」とすべく拠点運営委員会に参画し、運営全般に関わっているほか、拠点に常駐するボランティアの育成や相談を受けた場合の見守りなどを担っている。この拠点は地域の昼食会や打合せ等の場としても活用されている。地区内のＮＰＯ法人が運営するようになってからは、ますます地域の活動に活用されるようになり、年間3，０００人ほどが来所するまでになっている。

・ＮＰＯ法人の活性化

区社会福祉協議会は、高齢者等地域拠点の開設時には休眠状態だった地区内のＮＰＯ法人について、ゆくゆくは当該拠点の運営を担うことができる団体になるよう、有償移動サービス事業（国土交通省認可）への参入と展開を全面的に支援し、ＮＰＯ法人の活性化を助けた。高齢者等地域拠点の開設は、地区、区社協、区の3者が協力して行ってきた最たる事業である。

第1期計画期間は、これらの取り組みのほか、福祉まつり（主催：地区社協、補助：区）やこどもの遊び場イベントなどを通じて、地区全体での福祉の盛り上がりが起こった時期である。

❷第2期計画策定後（平成23年度～）

第1期計画の取り組みが着実に各組織で推進されるようになった。特に、こどもの遊び場イベントについては、平成23年度からはこども青少年局が所管するプレイパーク事業へと発展することになった。現在、地区内の有志で立ち上げた新たな団体で、市から派遣されるプレイリーダーの支援を受けて展開され、毎回、多くの参加者を得ている。このほか、新たな取り組みを紹介する。

・地域情報誌の発行

地域情報誌は、平成23年度に市民局により創設された「地域運営補助金」を活用し、連合、地区社協の合同により発行されている（11月、3月予定）。各活動の担い手だけでなく、地区内でより広く理解者や参加者を得ていくために、発行している。

・新たな総合的な課題設定と検討

第1期計画では、福祉の向上のために数多くの個々の取り組みが立ち上がったが、第2期計画では、地区内のつながりをより強めるような総合的な課題に取り組んでいる。その一つがコミュニケーションの活性化で、「あいさつ♥いっぱい♥みなみせや」をテーマに取り組んでいる。もう一つは、地域人材の育成で、連合や地区社協の活動を共に担う人材を今以上に発掘して育成しようという動きである。

このように、連合や地区社協の連携により、より総合的なテーマが検討されている。

4　なぜ活動が複合的に広がったか

❶素地（連合と地区社協の連携の歴史）

南瀬谷地区では、計画策定以前から、連合や地区社協が行う活動は、相互に協力しあい進められてきた。その背景には、地区社協活動の歴史の長さもある。地区社協は、連合とともに30年以上活動を続けた後、10年ほど前に連合から独立し、現在は単独会計のもと各活動を展開している。また、各理事会には、相互の役員が出席し情報共有を図っているほか、地域全体のイベントにおいては、各々の役割がほぼ定着しており、連合と地区社協が常に両輪となり、活動が展開されてきた。

❷計画の推進母体と区の地区支援チームの両輪

このため、南瀬谷地区の地

域福祉保健計画の推進母体は、連合及び地区社協のメンバーによる「南瀬谷地域福祉保健計画推進協議会」となり、より一層各団体のつながりが増した。区が果たせた最も大きな役割は、まずは複数の団体をつなぎ、話し合いの場を設定したことだろう。並行して、区も個々の業務所管課ごとに関わるのではなく、総合的に地域を支援する体制を整えた。これらが、計画策定後の取り組みが多機関の連携により、より複合的に内容濃く進められた要因であろう。

❸経験豊かな役員の存在

地区内に、様々な役を何十年も務め、地域の人材を良く知り、つなぐことのできるリーダーがいたことも大きい。その結果、次世代を地区内の活動につなげていくことが上手であり、連合、地区社協ともに次を担う40～50代が活発に活躍しているのも特徴的である。

❹福祉保健チームと総務土木チームの連携

地区にリードされる形で、福祉保健チームと総務土木チームとの連携は密となっている。これにより、例えばプレイパーク事業を支援する場合も、運営に関することや公園管理に関することをそれぞれが適時に分担し、進めることができている。

5 今後の展開に向けて

南瀬谷地区は、地域福祉保健計画をツールとし、より多くの団体で地域全体の福祉の向上を図り、そして暮らしの向上を図るという段階を踏んできている。結果、徐々に「広いつながりづくり」が進められようとしている。

福祉は暮らしそのものである。そして、地域の暮らしに目を向ければ、ソフトもハードも相乗的に進むものであるということを実に痛感する。

活動が活発な地区を支援する中で感じる、地区支援業務の重要な点を簡単にまとめたい。

❶つなぐ力と寄り添う力で、事業は地域で活かされる

地域の活動を知ると同時に、地区に関係する様々な市（区）の事業を把握していると、適時に関係課につなぐことができる。さらに、つなぎ放しにするのではなく、つないだ先と共にアイディアを出し合うことにより、一定の枠組みの決められている事業でも、地区の事情に即した事業展開が可能になり、地区で活かされていく。

❷地域の自治組織と個々の活動双方からの働きかけが重要

個々の活動や事業等の実施者への支援と共に、地域の自治組織への働きかけにより、双方の活動は連携し活性化され、より良い活動になっていく。

6 おわりに

最後に、地域の中でのつながりづくりをイメージいただくための小話で結びたい。

とある日の南瀬谷地区内にあるカフェでの出来事。店主は、地区内の配食サービス「たんぽぽの会」の創設からのメンバーで、献立の担当。「この近辺では、たんぽぽのお弁当を取っている人は3人なの。一人暮らしでお昼のお弁当を取りたい人はもっといるかも」。それを聞いた、地域の茶話会の運営者は「じゃあ、うちの参加者さんにたんぽぽさんのお弁当を紹介したいな」。慣れ親しんだ地区で知り合いが経営するカフェ。その店主が地区内の活動で作るお弁当。一気に生まれる信頼感。これから、信頼関係のある人たち同士の口コミにより、ますます広がっていくことでしょう。地域活動・資源の良さはこういうこと。地域活動者がつながるとはこういうこと。つながっていくとはまぁこういうこと。

私たちがお手伝いできるのは、人材育成の支援や活動支援、つなげること、など。お手伝いできる部分はないか、いつも探っています。